

時評



# 「社会連携」と「グローバル化」 で育む「実践力」

学校法人実践女子学園 理事長 木島 葉子

## ■ 実践女子学園の取り組み

実践女子学園は、「女性が社会を変える、世界を変える」という建学の精神のもと、未来のために自ら社会や世界をより良くしようとするマインドを持った人材の育成・輩出を目指しています。これは、明治時代に欧米の女子教育視察を行い、日本における一般女子教育の重要性を認識した創立者、下田歌子の考えを建学の精神に据えているからです。下田歌子は、女性の地位向上に尽力し、数々の学校の設立・運営に携わると共に、海外からの留学生を受け入れるなどの社会活動を実践してきました。

本学園は、昨年創立125周年を迎えました。この節目を契機に、教育の柱としている「社会連携」と「グローバル化」をより鮮明に打ち出すと共に、社会に、世界に開かれた学びの場、オープンな学園を実現していきます。

## ■ 「社会連携」の意義と実績

本学園の社会連携プログラムを通じて、本学園の学生・生徒は実社会で生かせる能力、つまりは「実践力」を磨くと共に、地域社会の発展にも寄与しています。

特に、2021年に設立された社会連携推進室の役割は大きく、社会連携担当理事である難波雅紀副理事長のもと、新規の社会連携案件の開拓・企画・プログラム立ち上げの伴走や、組織間の情報共有ができるように体制を整えました。その結果、企業や自治体との協力体制を一層強化することができ、2023年度には、新たに200件の社会連携活動を実施し、延べ6,639人の学生・生徒が参加しています。例えば、大学では、学生がグループで、企業の販促活動における課題解決案を考え、企業に提案・発表するといった取り組みを行っています。中学校高等学校では、企業からのミッションに取り組む探究学習であるクエストカップに参加し、グランプリを獲得しました。また、企業の協力を得て商品を生徒が企画し、学園祭で販売しました。

2024年には新たな試みとして大学のキャンパス内に「JISSEN “PLAY” BASE」を設置し、企業と学生たちが直接交流できるスペースをオープンしました。ここは、学生のニーズを企業の新たなアイデアに生かすことができる、教育の場と実社会をつなぐ新たなモデルとなっています。

これらの活動は、教育活動の一環としてだけでなく、地域や社会との相互発展の礎ともなっています。本学園の社会連携活動は実社会で生かせる能力の育成を目的としたものであり、決して将来の就職に役立てることに特化しているわけではありません。あくまで学びの場であり、未来のために自ら社会や世界をより良くしようとするマインドを醸成する役割を担っています。

## ■ 「グローバル化」の推進

「グローバル化」においては、下田歌子と縁の深いイギリスのケンブリッジ大学ヒューズ・ホールカレッジを含む、22の国と地域、56の大学や11の海外企業と協定を結んでおり、長期・短期留学、海外インターンシップを積極的に推進し、国際的な学びの機会を提供しています。

また、2024年4月に国際学部を渋谷キャンパスに新設、 Semester・クォーター併用型の教育プラットフォームを活用することで海外留学などのグローバルプログラムへの参加をしやすくするなど、時代に即した教育内容を提供しています。

これらの取り組みにより、学生たちは「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」といった実践的な教育を受ける機会を得ています。また、留学や海外インターンシップから帰国した学生に対しては、国内外でのキャリア形成を支援する体制を整えています。

中学校高等学校においては、「世界環境デー」や「世界食料デー」に関する自主的な活動を生徒が行うなど、ユネスコスクール加盟校としての活動を行っています。

これらは、グローバルな社会で活躍できる「実践力」を養うことに直結しています。

## ■ 125周年記念事業を未来への礎に

125周年を記念して実施された4つの特別イベント―「JISSEN Global Way」、「探究パスポート2024」、「JISSEN マルシェ」、「特別ホームカミングデー」―は、様々なステークホルダーとのネットワークの拡充を図ることを目的に、学園の取り組みを広く地域や社会に知っていただける良い機会となりました。これらの成果を基盤に、次の10年を見据えた改革を進めてまいります。

	対象者	概要	開催時期	来場者数
JISSEN Global Way	中学生 高校生 大学生 卒業生 保護者 等	グローバル人材の育成に向けた学園の取り組みや、世界を舞台に活躍するために今後何が求められるのかを見つめるシンポジウム（池上彰氏による基調講演、パネルディスカッションを実施）	6月	約800名
探究パスポート2024	高校生	探究学習を入試で活用するためのワークショップ	5月 7月	約347名
JISSEN マルシェ	日野地域の 方々	企業と連携したブース出展や、地域の子供たちが参加できるイベントを実施した地域連動型のイベント	9月	約1800名
特別ホームカミングデー	卒業生	創立者下田歌子ゆかりの地である「新潟県」をテーマに、卒業生とのネットワークを構築	11月	約480名

実践女子学園は、125年にわたる教育の実績を礎に、社会環境の変化のスピードがより加速している中、10年後の2035年を見据え、改めて、女子教育研究機関として本学園は何を目指すのか、理事および職員組織の部長職を構成員とした「学園将来構想策定委員会」を立ち上げ、議論を重ねております。詳細は、この4月に新たな中期計画という形で公表させていただきませんが、建学の精神の実現に向け、未来のために自ら社会や世界をより良くしようとするマインドを持った人を輩出すべく、本学園の教育の柱として、これまでも注力してきた「社会連携」と「グローバル化」を、より強化していきます。